

令和7年度 地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	つげ りょうご	
氏名	柘植 良吾	
所属・役職	中津川市総務部 DX 戦略課 課長補佐 標準的なバス情報フォーマット広め隊	
活動拠点	居住地は岐阜県です。全国どこでも対応できます。	
略歴	<p>【略歴】 2002年4月 入庁 2015年4月～2022年1月 公共交通担当（定住推進課） 2025年4月～ 現職（DX戦略課） 入庁後は、下水道課、IT化推進室、広報広聴課、コロナワクチン接種対策室、企業誘致課などでの業務を経験してきました。</p> <p>【活動】 ・標準的なバス情報フォーマット広め隊 ・総務省地域情報化アドバイザー（2019年～） ・デジタル庁デジタル推進委員（2022年～）</p>	
地域情報化の 専門分野・技術	<p>【GTFS とはバス情報の標準データ形式】 国土交通省は、バス事業者と経路検索事業者との間で乗換案内に必要な情報を受け渡しするための「標準的なバス情報フォーマット」を2017年に策定しました。政府の自治体標準オープンデータセットにも指定されています。</p> <p>このフォーマットは、バス停の位置や運行時刻、運賃といった静的情報を扱う GTFS-JP と、バスの現在位置や遅延情報といった動的情報を扱う GTFS リアルタイム (GTFS-RT) という2つの形式を包含しています。これらは世界的に広く用いられている GTFS (General Transit Feed Specification) と互換性があります。</p> <p>これまで各交通事業者や自治体が個別に管理してきたバス情報を標準化された形式で提供することにより、Google マップをはじめとする経路検索サービスでの利用が可能となり、利便性が飛躍的に向上します。さらに、オープンデータとしての活用や多様なデータ分析への活用など、新たなサービス創出が全国各地で進んでいます。</p> <p>GTFS-JP の整備は、公共交通の利便性向上とデータ活用のための手段の一つです。データを最大限に活用し、利用者にとって分かりやすく、安心して利用できる公共交通サービスを提供することで、真の価値が生まれます。それは、バスを必要とするすべての人々が、円滑に移動できる社会の実現に繋がります。</p>	

	<p>【支援できる専門分野・技術】</p> <p>①GTFS-JP の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GTFS-JP を整備する意義や活用事例の紹介（講演） <p>②GTFS-JP の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GTFS-JP 整備のお手伝い（支援） ・ GTFS-JP 作成ツールの使用方法（講習） → 「その筋屋」と「見える化共通入力フォーマット」の公認講師 <p>③GTFS-JP の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンデータ化 ・ デジタルサイネージの設定、機器調達、設置 ・ 経路検索事業者（GoogleMaps など）へのデータ提供 ・ 調査、分析への活用 など <p>④その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域公共交通計画の策定 ・ 地域公共交通の利用促進
<p>専門分野</p>	<p>オープンデータ 地域ビジネス ICT 活用広報 その他</p>
<p>自治体向けメッセージ</p>	<p>インターネットでバス経路検索ができなければ、バスは走っていないのと同じ！ わかりやすく使いやすい公共交通情報を提供したい！</p> <p>7年ほど地域公共交通に携わってきました。公共交通オープンデータ（GTFS-JP）の整備をしたい自治体の方など、お気軽にお問い合わせください！</p> <p>データ整備とデータ活用を通じて、バスをもっと便利でもっと魅力のある存在に。そして誰もが安心して移動できる地域を共に創っていきませんか？一緒に未来の公共交通をリ・デザインしましょう！</p>
<p>関連サイト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通オープンデータ“最先端田舎”への挑戦（ICT 地域活性化ポータル） https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/ict/jir_ei/pdf/2019_002.pdf ・ 公共交通オープンデータ“最先端田舎”への挑戦（中津川市 HP） https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/life/rt/2/3294.html ・ 経路検索の充実とバスロケデータの利活用～標準的なバス情報フォーマットの拡充～（国土交通省 HP） https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000067.html

<p>地域情報化に関する実績</p>	<p>これまでの経験業務・研究活動</p>	<p>GTFIS-JP 作成ツール「その筋屋」や「見える化共通入力フォーマット」を用い、自治体職員の視点でデータ整備・活用に取り組んでいます。</p> <p>最初のデータ整備だけでなく、その後の更新や担当者が異動する際の引き継ぎの重要性を訴えるとともに、データ整備をきっかけとした公共交通利用促進や効果検証を行っています。</p> <p>【講演、データ整備支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省中部運輸局、国土交通省四国運輸局、国土交通省九州運輸局、総務省東海総合通信局 ・秋田県、富山県、長野県、岐阜県、静岡県、三重県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県、愛媛県、大分県、宮崎県 ・市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）、京都光華女子大学 など <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務省 通信インフラに依存しないデータ駆動型住民 QOL 向上策に関する調査研究会（2025 年 1 月～2025 年 3 月） <p>【寄稿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月刊ガバナンス 2024 年 6 月号「お金がない！から始まった公共交通担当者の奮闘記」 ・月刊 J-LIS 2025 年 2 月号「GTFIS-JP 整備から地域のバスを元気に！」 <p>【表彰・受賞歴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年 3 月 総務省 ICT 地域活性化大賞優秀賞 受賞 https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu06_02000206.html ・2019 年 10 月 国土交通省中部運輸局長表彰（一般協力者） 受賞 ・2019 年 12 月 第 10 回コレゾ賞 受賞 https://corezoprize.com/tsuge-ryougo ・2020 年 11 月 地方公務員が本当にすごい！と思う地方公務員アワード 2020 受賞 https://www.holg.jp/jirei/2020-08/
	<p>これまでに関与した地域情報化に関するプロジェクト</p>	<p>【公共交通担当として取り組んだこと】</p> <p>◆地域公共交通計画を自らの手で策定！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサルに委託しないで計画を内製 ・定住推進課が公共交通を所管する特長を活かし、「住んでよかった、住んでみたい街に」を基本方針に掲げ、各種施策を実施。 <p>◆GTFIS-JP 整備を契機に地方バスを活性化！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中津川市内を運行する民間路線バス・北恵那バスと、地域内を巡回する市コミュニティバスの「標準的なバス情報フォーマット（GTFIS-JP）」を独自に整備しオープンデータ化。 ・インターネットによるバス経路検索が可能に。多言語整備でインバウンド需要に対応。 ・公共交通オープンデータを活用したデジタルサイネージの設置などに取り組み、「わかりやすく使いやすい公共交通」の実現を目指す。

◆市内バス事業者の生産性向上に向けて！

- ・ 経験と勘に基づく職人技で行われていたダイヤ編成業務をシステム化。
- ・ 運行計画の策定を行えば自動的に GTFS-JP が生成される体制を整える。
- ・ ベテラン職員の退職や人員不足が予想される中で、データを活用した業務改善、生産性向上を目指す。

◆グリーンスローモビリティと ICT を用いた地方都市バス活性化実証

地方都市の抱えるバス利用者の減少やバス事業者の採算性悪化などの問題に対して、グリーンスローモビリティ（GSM）や ICT といった新技術を活用して解決策を見出す実証実験を実施。

- ① グリーンスローモビリティによる観光交通と生活交通の新たな需要創出実証
- ② 生産性向上と働きがい向上のための地方バス事業者 ICT 化推進モデルの提示